

○ 参加者

吉田明生 名取禎 柏木白光 佐々木宏 佐藤慶太 渡邊宏 宮岡隆 山田裕介
森島基 山口剛 江口亮 尾又ゆかり (12名)

○ 議 事

1 議題等 吉田説明

(1) 第1回会議以降の動き等

ア 手続き事項

申請：8 / 1、登記：8 / 10

イ 参加者の変動等

大西さん：連絡不通

増野さん：都合により不参加へ

(2) 議題等の紹介

2 組織案 吉田説明

(1) 理事：組織の顔として相応しい方を招聘 + α の可能性有り

(2) 事務局：企画等について、その他は未定

(3) 研究員：事業として拡大していく過程で研究・提言

(4) パートナー企業等：組織の信頼性の確保のため

(5) 講師

ア 経営セミナー：経営者を対象とした講座

価格設定 例：100万円程度 / 1回を基準

イ 災害防止セミナー：ニーズに合わせて

価格設定 柔軟に対応

3 事業計画の考え方 吉田説明

(1) 方針 資料のとおり

(2) 事業案

ア ホームページ 後程審議

イ グローバルカフェでの短い講話

講師：吉田 「留学生の災害時の情報入手について」

ウ オリックス・イベント 里 関連 細部は次回

エ ドリームズ・カム・トルー 佐藤慶太 説明

「強くなろうニッポン！キャンペーン（案）」

吉田 災害防止研究所がこのようなキャンペーンの中心となれると良い

こういうキャンペーンを通じて名を知らしめたい

オ 会員募集等

(7) 基金：資料のとおり

- (イ) 会費：意見聴取
森島：50万、30万というのはある 違和感はない
佐々木：中小企業は50万／年だけだと厳しい
吉岡：一般の企業は経費削減の流れがある
山口：入ることによりどのようなビジネスチャンスがあるのかでは
吉田：今後の検討事項にする
名取：会費でなくとも協賛金制もある 要は企業が何を得られるのか
サポート企業制もある それは1口いくらなのでメリットは薄くても可能では
佐藤：メリットの明確化が必要 形ができるまでは内輪の企業が趣旨に賛同して賛助会費的に、その後広く集める方法もある
吉田：案としては、「安くして幅広」と「間口を狭くして」がある
柏木：「会費」という言葉の使い方はいかがなものか
(企業にメリットを示せる柱の事業について議論もあったが、後ほどの議論でその基となるコンセプトの明確化が先であるとの結論が出るので割愛する)

結 論

- 吉田：賛同してくれる方を幅広く集めることとし、10万／1口の協賛金としたい
質問：協賛企業はどのように反映されるのか
吉田：現パートナー企業と協賛企業はホームページに広告を掲載
(説明に回るプレゼン資料には広告は掲載しない)

カ 検討事項

- (ア) イベントでの防災ゲーム：子供たちへの知らせめる場として開発・工夫したい
- (イ) 災害防止認証規格作成
国は国土強靱化を推進しており流れはある
吉田：自衛隊の考え方を防災に活用したい
企業の大小に関わらず同一の考え方で危機管理ができるために用語・計画体系の統一、資源の共通化が必要では
森島：企業は従業員の安全確保が必要であり法律を根拠とした防災規定の説明が必要では
吉田：現時点では防災に関して体系化された考え、普遍的に使える考えがないので、何らかの認証制度が必要
例 大西さんが参加してもらえればドローンの認証制度の可能性有
- (ウ) 研 究：認証の部分で専門的要素が必要になってくるときにその研究を行う
- (エ) 機関誌：年に2～4回でホームページに掲載
経営者のインタビューと情報発信

4 業務予定 吉田説明

(1) 業務予定：資料のとおり

(2) 広報ツールについて：山口

ア 説明：「災害防止研究所の広報ツール制作について」に基づき説明

イ 質疑応答

吉田：災害等が起こった場合へのコメントの発信はどこに

山口：ホームページの「最新情報に記載」

※ 参加者の多数から「広報ツールに掲載する設立の趣旨が一番重要であるがそれが不明確な部分がありそれが明確化されないと個別の中身の検討に入れない」との意見が提出される

※ 吉田：各人でホームページに掲載するコンセプト（案）をA4×1枚以内で次回までに募集しそれをみて検討 今後の予定は1ヶ月の後ろ倒しとする

次回、10月2日（火）16時～

場所 ウッドオフィス 5階会議室

以上